



# クラウドを含めたネットワーク接続機能を IBX®データセンターに集約 マルチクラウド化推進に最適なIT基盤構築を実現

三菱UFJニコス株式会社は、自社IT基盤のマルチクラウド化の推進に際して、株式会社大和総研ビジネス・イノベーションが提供する「Cloud Hubプラットフォーム」を選択。同プラットフォームの基盤として採用されているのが、エクイニクスのInternational Business Exchange™ (IBX®)データセンター、およびPlatform Equinix®上で展開されたEquinix Cloud Exchange Fabric™である。主要なネットワーク機器やクラウド接続機能をエクイニクスの基盤に集約することで、運用管理負荷を抑制しながらマルチクラウド化を容易に実現できる環境を構築した。

## 課題

- ・ コア業務に集中できる環境の確立に向けたパブリッククラウドの活用
- ・ マルチクラウド導入に伴う運用管理負荷の増加とネットワーク構成の複雑化
- ・ マルチクラウド基盤構築に際したサポートに対する不安

## 解決

- ・ 将来的なマルチクラウド化の拡大にもワンストップで対応するCloud Hubプラットフォーム
- ・ クラウドを含めたネットワーク接続機能をIBXデータセンターに集約。運用管理負荷を抑えた最適なIT基盤を構築
- ・ 大和総研ビジネス・イノベーションの知見に基づいた的確なサポート

## ネットワーク構成の複雑化と運用管理負荷の増加がマルチクラウド化推進の課題に

三菱UFJフィナンシャル・グループの中核を成し、国内大手のクレジットカード会社として知られる三菱UFJニコス。同社がIT基盤の強化に向けて、積極的に取り組んでいるのがクラウドを含んだデジタル化である。

三菱UFJニコス システム基盤・運用部 システム基盤グループ 次長の皆川 朋輝氏は、「近年、当社では利益向上をもたらすコア業務に社員が集中できる環境を実現するために、パブリッククラウドの活用を本格化させており、アマゾン ウェブ サービス (AWS) を利用したシステムのクラウド化を推進してきました」と説明する。

そうした中で課題として浮上していたのが、今後、さらなる拡大が予想されるクラウド基盤の運用効率化、そしてネットワークの最適化だった。三菱UFJニコス システム基盤・運用部 端末・ネットワーク基盤グループ ネットワークチーム 調査役の中村 倫明氏は、「中でも目の前の課題として浮上して

いたのが、クラウド型グループウェアの導入でした。当初はオンプレミスの既存データセンターから直接接続して利用する計画でしたが、回線コストが高額となることや、ネットワーク機器などの運用管理の負荷増、ネットワーク構成の複雑化が課題視されていました」と説明する。

## IBXデータセンターを基盤に据えたCloud Hubプラットフォームを採用

これらの課題を解消するとともに、将来的なマルチクラウド化にも容易に対応可能な基盤を実現するため、三菱UFJニコスが選択したのが、大和総研ビジネス・イノベーションが提供する「Cloud Hubプラットフォーム」だ。同プラットフォームはビジネスの変化に迅速に対応可能なIT基盤を実現する、“真のマルチクラウド”を提供するもので、複数のパブリッククラウドとの高い接続性を特長とする。

このCloud Hubプラットフォームを支える基盤として採用されているのが、エクイニクスの「IBXデータセンター」だ。



## 三菱UFJニコス株式会社

三菱UFJフィナンシャル・グループの中核企業として、様々なキャッシュレス決済サービス提供や基盤整備を担う。MUFGカード、DC、NICOSブランドのクレジットカードを個人のみならず様々な企業を対象に発行、加盟店向けには多彩な決済システムを用意し、金融機関や事業法人からクレジットカードやデビットカードの発行業務なども受託。永年培った事業ノウハウと経験を活かし、次代に向け広範な決済ニーズに対応していく。

本社所在地

東京都千代田区外神田4-14-1 秋葉原UDX

<https://www.cr.mufig.jp>

## 大和総研ビジネス・イノベーション

Daiwa Institute of Research Business Innovation

## 株式会社大和総研 ビジネス・イノベーション

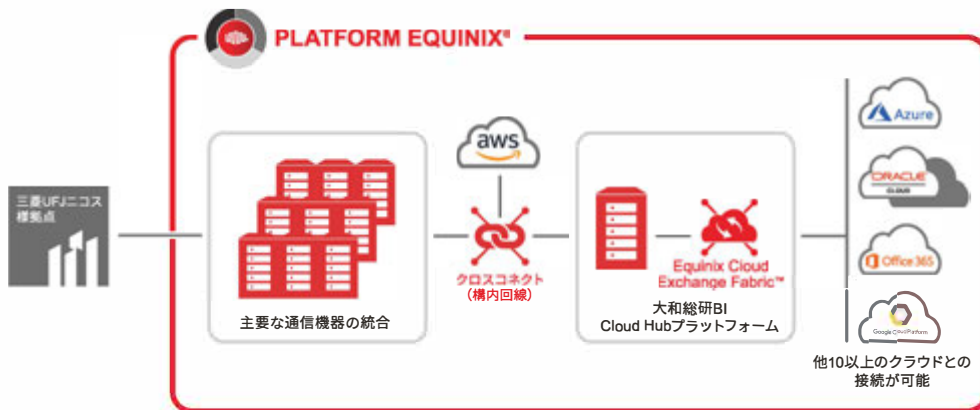
大和証券グループのシンクタンクとして、リサーチ、コンサルティング、システムの3つの機能を融合させた、トータルソリューションの提供を強みとする。システムコンサルティングや、AI技術やデータサイエンスの知見に基づいたシステムインテグレーションなどシステムソリューションをフルラインで提供している。

本社所在地

東京都江東区永代1-14-5

<https://www.dir.co.jp/corporate/bi>





“主要なネットワーク機器の集約による運用負荷の抑制、さらに将来的なマルチクラウド化の推進に柔軟に対応可能な環境の実現が最大のメリットです”

— システム基盤・運用部 システム基盤グループ次長 —  
皆川 朋輝 氏



(写真左から)  
三菱UFJニコス株式会社 システム基盤・運用部 端末・ネットワーク基盤グループ ネットワークチーム 調査役 中村 倫明氏  
システム基盤・運用部 システム基盤グループ 次長 皆川 朋輝氏  
株式会社大和総研ビジネス・イノベーション システムコンサルティング本部 システムコンサルティング第一部 次長 井上 健成氏  
企業システム開発本部 企業システム開発第六部 上席課長代理 仁木 寛和氏

大和総研ビジネス・イノベーション システムコンサルティング本部 システムコンサルティング第一部 次長の井上 健成氏は「エクイニクスの最大の魅力は、マルチクラウド対応の相互接続サービス『Equinix Cloud Exchange Fabric』を利用することで、複数のパブリッククラウドとの容易な接続が可能であること、そして、多種多様なクラウド事業者との密接なパートナーシップにより、日々、登場する新たなクラウドサービスへの接続にもいち早く対応していることです。そうしたメリットを三菱UFJニコス様に提案しました」と説明する。

また、同社 企業システム開発本部 企業システム開発第六部 上席課長代理の仁木 寛和氏も、「今回のプロジェクトのポイントは、Equinix Cloud Exchange Fabricを用いたCloud Hubプラットフォームを中心に据え、複数のパブリッククラウドサービスをあたかも1つのサービスとして活用できるようにしていることです。加えて、通信経路の統合だけでなく、主要なネットワーク機器もIBXデータセンターに集約。クラウドやインターネットとの接続環境を分散させず、全て1カ所に統合したことでネットワークの複雑化を回避し、運用の効率化とコストの最適化を実現しています」と強調する。

中村氏も「IBXデータセンター、そしてEquinix Cloud Exchange Fabricを基盤に採用したCloud Hubプラットフォームであれば、将来的なマルチクラウド化にも十分に対応できると考えました」と採用の理由を話す。

そうした優れた機能性に加え、大和総研ビジネス・イノベーションの手厚いサポートも採用の決め手となった。中村氏は、「同社はエクイニクスと一枚岩となり、こちらからの問い合わせや疑問点にも迅速なレスポンスを返してくれるなど、マルチクラウド基盤の構築が初めてとなる私たちに大きな安心感を与えてくれました」と評価する。

速なレスポンスを返してくれるなど、マルチクラウド基盤の構築が初めてとなる私たちに大きな安心感を与えてくれました」と評価する。

### 拡張性と接続性を確保したマルチクラウド基盤を実現

クラウド型グループウェアの導入を契機とする、マルチクラウド化プロジェクトは2019年7月からスタート。以後、順次展開が進められている。IBXデータセンターに設置されたネットワーク機能を統合したラック群も、パブリッククラウド接続の進展に伴い拡張を続けている。

今後の想定効果について皆川氏は、「オンプレミスのデータセンターへの直接接続と比較して、回線コストは10分の1程度に抑制されると見込んでいます。そうしたコスト削減効果はもちろんですが、パブリッククラウド接続およびネットワーク機器の集約による運用負荷の抑制、さらに将来を見据えたマルチクラウド環境を実現できたことが、最大のメリットであると考えています」と強調する。

運用負荷を抑えながらも、最適なIT基盤を構築した三菱UFJニコス。これからもエクイニクスは大和総研ビジネス・イノベーションと密に連携し、三菱UFJニコスのビジネス拡大をデジタルインフラでサポートしていく。

## エクイニクス

Equinix, Inc. (Nasdaq: EQIX) は世界で最も相互接続性の高いデータセンターであり、世界中の主要企業とそのお客様、従業員、パートナーとの接続を提供しています。世界5大陸で50を超える都市をつなぐデジタルビジネスのためのグローバルプラットフォームとして、企業や組織があらゆる場所で、あらゆる人やモノとつながり、デジタル化された未来を実現していくことを支援しています。

本社所在地  
〒103-6035  
東京都中央区日本橋2-7-1  
東京日本橋タワー 35階

[Equinix.co.jp](https://Equinix.co.jp)